

高退協ニュース

高知高退協
事務局
1999-11-16
No.101

高知県高等学校退職教職員協議会
高知市丸の内二丁目一〇番八
TEL 087-811-1682
FAX 087-811-1683
振替口座 徳島 511-1893

秋のせと・しまなみへ

研修旅行過去最高の参加で

少なくなつた明治生れの大先輩、石建先生の参加でおおいにもり上がった研修旅行は、十一月八、九の両日成功裏に終了しました。ガイドが足の怪我で途中に交替するというハプニングも影響はなく楽しくて有意義な旅行でした。一行は三十一名（男性十八名女性十三名）。

初日は江戸時代の最後の築城という赤穂城の城跡から。元禄繚乱・あこう展示館は武士の誇りと意地の下に歩んだ「武士（もののふ）の道」を再現。「忠臣蔵」の世界を見ながら遊びながら体感してゆくことができた。この展示館は年末には取り壊される。またこの城には「錦帯池」という広大で美しい庭園があったそう。近々復元工事が始まり二〇〇二年に完成の予定。時を得た見学であったと言えよう。

午後には姫路城。この城は「一三三三年赤松則村がはじめた城郭を築き、のちに天正八年（一五八〇年）秀吉が西国支配の拠点として濠を巡らし三層の天守を築いて、ここに近世城郭の異彩を放った」とある。のち



●回は昨年より一人多く、過去最高、わたしたちの希望はバス二台をつらねること。参加者は来年も行くぞと決意を固めて家路につきました。（担当・西込）

憲法擁護集会もつ

家康の女婿池田輝政が城主となつたが一六〇一年から八年にかけて増築したのが今の城郭の姿。明治になって民間人に二十六円で払い下げられたが、解体にあまりに費用がかかるので躊躇しているとき幡多出身の村大佐が、壊さないようにと進言したことからこの名城は残り残りました。世界遺産の成立に高知県もかわつてきたのかと一同感嘆。

ガイド養成所の先生というピンチヒッターに替つたのは文学の道、坂道の町尾道。軽妙なガイドで村上水軍の話にのせられ千光寺公園を後にした。向島、そして本院坊秀の生誕の地因島を過ぎて生口島へ入る。平山郁夫美術館はすばらしい。よくも残っていたものよと感嘆する程、子供の頃からの絵が展示されている。下絵が並べて展示してあり名画の完成過程がよくわかるようにと工夫がこらされている。時間が少なく後髪を引かれる思いで美術館を後にしました。最後は天照大神の兄の大山積を祀つてある（古事記・日本書紀）という大山祇神社を参拝。数々の国宝や重要文化財に堪能した人もあつたそ

11月3日午後1時半から3時半まで、高知城ホール4階に約百二十名（高退協15名）が出席して「憲法と日本の未来を語る県民のつどい」が開催されました。まず、コーラス合笑団のコーラスで開始、栗原透革新選代表が主催者挨拶。つづいて、「自自公政権と憲法の危機」と題して山原代議士が半時間「基調報告」を行いました。

各層各分野の代表10名が、職場地域での憲法上の問題や運動について報告。最後に集会アピールを採択して閉会しました。退職教職員を代表して岡崎高退協会長が次の概要の意見発表をしました。憲法は基本的人権の保障を規定しているが権利は闘わずして守られたり拡大したりするものではない。県教組の闘争を通じて数多くの権利を確保した。この成果を大いに語つて組合員を拡大し、闘う組合づくりをしてほしい。平和、生活、権利を守るため退職者も力の限り闘いたい。平和憲法を守りぬこう。

草声老話

「国保料払えない」350万世帯、2年間で45万世帯増、大企業の大減人減らし、2011年までに41社で14万人、総資産99兆円、旧財閥枠超え再編5年で9300人を削減、等々の記事が立て続けに報道され、リストラに遭遇した労働者とその家族の生活はどうなるのだろうと危惧する。日本共産党が「日本経済への提言」を発表した中で、大企業の社会的責任7項目の中に、雇用に対する責任、地域経済を守る責任がある等と、日本経済再建の道を示したが、銀行、損保会社は次々と大型合併をし、労働者の生活などおこまいなバルプランを発表、14万8千人の社員を2万1千人削減、部品を購入している千減、部品の購入している千に6百社に減らす。

望年・芸能大会の集い

今年は大ホールで開催

99年12月6日(月)

5時~7時30分

高知城ホール 4階

昨年は54名の仲間が集いました。今年は会場を大ホールに移し、舞台・スポット付きで芸能を楽しみたいと思っております。そして、ホールの一隅に作品展（手芸・工作・書・孫のスケッチ等々）を設けます。参加者1点以上持ちよりの意気で成功させましょう。来年は、高退協結成25年です。

◎ 懇親会費 ￥ 5000

◎ 連絡先

873-7123 (古味)
822-6778 (中川)
843-2713 (和田)

◎ 集約日 12月2日(木)

今、港南革新懇の活躍が目を見ひく。朝倉革新懇もあるが活動していない。4月から街頭に立ち、大資本、自衛隊、Iターンは、記事になるが、Uターンでは居場所がある。潜在的な失業者をかかえている。田も畑も無くなっている。スパーでは中国野菜が中をきかせている。このまま老いてゆく現状ではないかと痛感する。(W)

東条寺殘日録 坪井 幹之

「山の会」山行記録
 (1) 三月二十六日、年次総会を開催。二十一名出席。懸案になっていた「スポーツ安全保険」に加入することを決め、運営委員に上岡、竹島、林、山本、渡辺、桑原、坪井の七名を選出。終了後、「あさくら屋」で懇親会。
 (2) 四月六日の運営委員会で年度の行事計画を策定、今年度の山行を開始。四月二十七日、大座礼山、十九名の参加。五月十六日、カガマシ山、十三名の参加。六月、工石山、十四名の参加。
 (3) つづいて夏山最大の行事七月例会。目指すは尾瀬の至仏山、燧ヶ岳、南会津の駒ヶ岳。三山とも「日本百名山」に挙げられた名峰である。七月二十二日から二十六日まで四泊五日の長丁場。十六名の参加あり。急坂、どろんこ道に悩まされたが、無事に三山の登頂を果たす。ワタスゲな

ど高層温泉の花々の印象は深い。(この山行については二ユース9月号の「旅のしおり」で浜田昌俊さんが報告)
 (4) 八月例会の剣山は残念ながら雨天で中止。番外にヒマラヤトレッキングの高山病対策として富士に登る。参加者十二名。二十三日高知発、JRで富士吉田へ。その夜は民宿泊。二十四日五時宿を出て、富士浅間神社に参拝、中の茶屋、馬道を登り富士本体の登りにかかる。森林帯の一目から砂礫帯の始まる六合目までの行程をこなして山小屋「雲海荘」に草鞋を脱ぐ。二十五日、快晴の早朝頂上に向かう。喘ぎ喘ぎ七合目、八合目の急坂を登って、本八合目の山小屋「トモエ館」に着。荷物を置いて、更に登る。十一時に吉田口の頂上に立つ。小休のあとお鉢めぐり。最高点剣ヶ峰で記念写真。誰も高山病の兆候なし。頂上下山口から一気に本八合目へ下る。所要時間三〇分。ビールで乾杯。最終日二十六日は雲海の

上のご来光を拝んで出発。長いジグザグの下山道をまるびつころびつひたすら下りる。やっと、スバルラインの五合目に到着。二泊三日の富士登山終了。河口湖、大月から東京へ。羽田からの機中で雲海上の富士に別れを告げる。
 (5) 九月例会は大山。十一名の参加。二十八日、民営の国民宿舎で前泊。二十九日、早朝五時四十五分に登山開始。天気好晴。3時間で頂上へ。「山の会」の宿願を果たす。2時間で下山。帰りの高速度路より大山の雄姿を仰ぐ。
 (6) いよいよ十月例会のヒマラヤトレッキングとなる。一昨秋、「山の会」はネパールの山旅を実施した。前半のアンナプルナ・ダウラギリ探訪では、間近に八千米の神々の座を仰ぎ見る事ができたが、後半に訪れたエベレスト街道ではお目当ての最高峰サガルマータ(エベレストの現地名)は連日雲に隠れて対面することなしに心残りの帰国となった。再度の挑戦であ

る。参加したのは精鋭十名。十月十三日から二十七日までの波瀾万丈の旅であった。詳しくは機関誌「こうたいきょう」に「シヤングリ・ラの旅」として報告することになっているが、天候急変もあって結局、目的のゴキキョビクに達することはできなかったが、遊覧飛行で上空からエベレストに肉迫、全員満足感にひたりながら無事帰国。
 (7) 最後にこれからの山行計画を紹介。十一月は四国霊場・雲辺寺山。十二月は四国のみち「岬めぐり」(香川県詫間町)。一月は高尾越と共催の新年ハイキング。二月は土佐市横瀬山系ハイキング。三月は足摺岬の白崖山ハイキング。

『老眼鏡』

「日本語練習帳」 大野 晋 著

「日本語練習帳」が爆発的に売れたようだ。出版社は売れるだろうと予測したという。漢字検定を受ける者が増加する一方だから、日本語そのものにも関心が強くなっているだろうと判断したわけだ。見事あたった。漢字検定受験者の増加は、ワープロなどでカタカナから漢字に変換する時、同音異義語がズラズラ並ぶ中から選ぶのがきつかけになっっているらしいというのがおかしい。
 練習帳だから、入試問題集のように、出題回答説明という形式が多いが、勿論説明の部分が眼目で、著者の日本語学者としての蘊蓄が光る。うーん、そうかあとな納得させられる。(問題の配点表が巻末にあつて自分の得点がわかりますよ。)全体は五部に分かれています。
 Iは単語について。「思う」と「考える」の違いはまあ問題ないとして、「嬉

しい」と「喜ばしい」の違い、説明できますか?、普段何となく使い分けてゐるが、理論的に理解しているわけではないと思ひ知った。
 IIとIIIで文の問題に入る。IIは「は」と「が」の文法上の違いをとりあげている。a私は大野です。b私が大野です。c大野は来た。d大野が来た。「は」と「が」の違いが例文の対比で感得される。文法が語感の微妙な違いに直結している。ことばに対する感覚をみがなくてはならないと著者は主張しているのだ。
 IIIは文を書く時の二つの心得。①「のである」「のだ」を消せ②「が、」を使うな。要諦は文を短くわかりやすくである。一つのセンテンスには一つの内容を。一センテンスの長さは百字までと。IIやIIIは目からうろこの思いがする人も多いと思う。
 IVは著者の授業での実践。著者は「表現法」という授業で、年間二十回ほど生徒に新聞の社説を縮約させたそう。一四〇〇字を四〇〇字に。更に二〇〇字に。最終的にいくつかの項目にさせる。読み手の側からの

この作業は、書く側に立ったときどういふふうになるか。組み立ててゆくかを生徒は体得させたという。私ももう一回やり直してみたい。
 Vで私が感じ入ったのは、日本人が人間関係を上下、遠近、親疎を第一にしてとらえる、そのとらえ方が敬語という形式になっているという指摘だった。すべての人間関係をはつきりと相互に根本的に違う立場の者と認めるヨーロッパ社会との決定的な違い。日本のかかえる諸問題の根をつきつけられました。
 著者はこの「練習帳」を日本語の入口と言っています。奥深い入口です。(坂本)

「私の健康法」

谷内純一

在職中はあまり病気をしなかつた私ですが、退職後体にな調を感じることが多くなりました。退職二年目は①原因不明の胃痛にしばしば悩まされ②五十肩③高脂血症の診断をうけ、ほかに予備軍として前立腺肥大、肝機能低下、痛風(ビールが飲めないのがつらい)が私の顔色をうかがって出番を待っているような次第です。
 健康維持のためにまず食事に気を使いました。玄米食、麦飯、豆腐、納豆、もずく、青汁等々、いろいろと試してみましたが、玄米汁は配達時刻の関係でやめました。食事に配慮することとは当然のことですが、人から聞いたことや自分が経験したことから、やはり運動することが、なによりも大切だという考えにたどりつきました。
 今は運動としては、朝のテレビ体操(十分間)と散歩(三十分、四十分)を心がけています。テレビ体操はVイデオでみながらできるので、八、九月は毎日一回はできましたが、散歩は天候などの関係で歩けたのは八月は八日、九月は十八日です。高知市の方は水中歩行のクラブに参加できるのがうらやましい。ボケ防止に①囲碁を楽しむ②週一回の英会話教室に参加しています。
 退職しての三年間を無事乗り切ることが大切とある人から聞きました。無事乗り切るつもりです。高退協のみなさんお互い元気に暮らしましょう。